

地域における J A の位置づけの変化

——組合員文化広報活動に着目して——

神戸大学 中島隆博

1 目的

この報告では、地方経済の担い手である農業協同組合（以下、J A）について、地域との関係に着目して J A の地域での位置づけの変化について明らかにすることが目的である。

J A 合併により合併後、旧 J A 本所があった地域では、合併前と比べ J A と地域・住民・農家（組合員）との距離感が生じ、J A が必ずしも身近な組織であると言えなくなった。また、J A は村落を基盤とした組織であったものが、近年の農家以外の准組合員の増加などにより、営農経済・金融・共済事業に加えて、食育など組合員向けの広報・文化活動が盛んに行われている。このことから、J A は農家の経済団体としての役割に加えて、地域での生活・文化活動の担い手となっていると考えられる。

2 方法

そこで本報告では地方の変化を論じるにあたり、なぜ J A に着目するのかを軸に、J A の協同経済組織、行政補完組織、圧力団体としての役割以外に、地域での生活・文化活動の担い手としての役割となっていることを明らかにするため、J A グループが発行している「家の光」「地上」などの雑誌や J A 広報紙等の資料を用いて、地域社会での J A の位置づけの変化を分析する。

3 結果

まず、J A が従来から担っている協同経済組織・行政補完組織・圧力団体としての役割については、この役割を介して J A が農家（組合員）と経済的な共同体を形成していた。しかし、農家（組合員）と非農家（准組合員）の割合がほぼ半数となっている中では、J A が従来から担っている協同経済組織・行政補完組織・圧力団体としての役割に加えて、J A が行う婦人部や年金友の会など管轄地域の組合員・地域住民を対象にした事業を広く展開するようになり、農家の経済団体から地域住民が広くカバーする地域協同組合として地域の文化活動の担い手に変化している。また J A では、准組合員を食と農の応援団として位置付けていることから、J A の活動は農産物の販売・流通と併せて、食育や支所ごとに開催されるイベントなどの組合員文化広報活動と呼ばれる活動を積極的に展開することで、地域の生活・文化活動の担い手としての位置づけを獲得しつつあるといえる。

4 結論

従来、地域活動は主に行政や住民自治組織が担っていたが、近年は地域における経済団体である J A も、組合員文化広報活動を通じて、地域での生活・文化活動の担い手として位置づけを獲得している。このことから、J A は地方における生活インフラを提供する事業者・経済的な拠点に加えて新たな位置づけを得つつある。J A は、単なる経済団体から行政・住民自治組織がカバーしきれない領域で生活・文化活動を補完する地域協同組組合として位置づけに変化している。

文献

武内哲夫・太田原高昭，1986，『食糧・農業問題全集⑦ 明日の農協 理念と事業をつなぐもの』農山漁村文化協会。